

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、
2000年1月1日から2016年3月31日の間に
関節リウマチで肺結核の治療を受けられた方へ

「結核に罹患した関節リウマチ患者患者における治療が及ぼす影響の研究」へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター
研究機関長 谷本 安
研究責任者 国立病院機構 南岡山医療センター 客員研究員 山中隆夫
共同研究者 国立病院機構 南岡山医療センター 統括診療部長 木村五郎

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

関節リウマチに肺結核を合併すると、治療自体が相反することが多く、一部の方には免疫再構築症候群と呼ばれる、肺結核の治療のためリウマチの治療を弱めたため状態が悪化してしまう病態も知られています。

しかし、関節リウマチの患者さんで肺結核を合併する方は、患者さんの数自体も少ないことから十分に明らかにされていません。

そのため私たちは、関節リウマチに罹患されるも肺結核に罹られた患者さんの治療経過および病状変化、検査等の結果の関連を解析し、臨床診断及び治療の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究は、関節リウマチ患者さんで肺結核に罹患した方より正確な臨床病態に役立つ情報を得る事で、診断と治療の選択に寄与します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、2000年1月1日から2016年3月31日までの間に当院で関節リウマチを罹患されるも肺結核の治療をされた方。

2) 研究期間

2016年3月倫理委員会承認後～2020年3月31日

3) 研究方法

当院を受診された関節リウマチ患者さんのうち肺結核に罹患された患者さんの症状、喀痰検査、血液結果等の臨床情報を用いて、肺結核治療と関節リウマチの治療がお互いに及ぼす重要な役割を果たす病態を検討し、症状や検査結果の対比を行います。

4) 使用する情報

年齢、性別、病歴、症状、治療歴、合併症等の発生状況、各種検査結果。

5) 試料・情報の保存, 二次利用

研究終了後, 情報については廃棄します.

6) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族より御希望があれば, 個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で, この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので, お申し出ください. 内容についておわかりになりにくい点がありましたら, 遠慮なく担当者にお尋ねください.

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして, 学会や論文で発表しますので御了解ください.

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで, お問い合わせ下さい. また, 対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としないので, 2020年3月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください. この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様へ不利益が生じることはありません.

<問い合わせ・連絡先>

国立病院機構南岡山医療センター

担当者: 管理課 建部 宏明

電話: 086-482-1121 (平日: 8時45分~17時15分)

ファックス: 086-482-3883